

沢村栄治 ネームプレート (1935年渡米遠征時に着用)

2024年、日本のプロ野球は90周年を迎えました。90年の歩みの中で、多くの選手が活躍し、様々な記録が樹立されましたが、今号ではプロ野球草創期を支えた名投手、沢村栄治ゆかりの資料をご紹介します。

1917年に三重県宇治山田市（現・伊勢市）に生まれた沢村は、京都商業の投手として34年夏の甲子園に出場した後、同校を中退して日米野球に参加。同年12月に大日本東京野球倶楽部（後の東京巨人）に入団しました。翌年2月から7月には球団初のアメリカ遠征に参加し、好成績を残しました。当館に収蔵されている沢村のネームプレートの三色の布部分には「NIPPON TOKYO BaseBall Club American Tour 1935」の文字が読み取れ、この遠征時に身に付けていたことがわかります。

E.Sawamuraと記された小ぶりのプレートの縁には装飾が施され、ボールの飾りが付いた小粋なつくりです。

速球を武器とした沢村は、36年に公式戦が開始されると、史上初のノーヒットノーランを達成し、37年春には日本球界初の最高殊勲選手（MVP）に選ばれました。その後ほどなくして徴兵され、40年4月に除隊すると巨人に復帰。しかし、41年9月に再び徴兵されました。43年球界に戻りましたが、かつてのような投球は見られず、退団。翌年には三度目の兵役につき、27歳の若さで帰らぬ人となりました。沢村のプロ野球在籍期間は僅か5年間でしたが、その間の華々しい活躍は今も語り継がれています。

公益財団法人野球殿堂博物館
学芸員 神津有希

